

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号
実用新案登録第3146903号
(U3146903)

(45) 発行日 平成20年12月4日 (2008. 12. 4)

(24) 登録日 平成20年11月12日 (2008. 11. 12)

(51) Int.Cl.

A 4 7 G 1/06 (2006. 01)

F I

A 4 7 G 1/06 B

評価書の請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号	実願2008-6736 (U2008-6736)	(73) 実用新案権者	507321875
(22) 出願日	平成20年9月25日 (2008. 9. 25)		市川 眞喜子
			兵庫県明石市大観町 1 0 番 3 4 号
		(73) 実用新案権者	508217445
			市川 綾子
			東京都北区浮間 3 丁目 1 番地 5 - 2 0 1
		(74) 代理人	100120329
			弁理士 天野 一規
		(74) 代理人	100159581
			弁理士 藤本 勝誠
		(72) 考案者	市川 眞喜子
			兵庫県明石市大観町 1 0 番 3 4 号

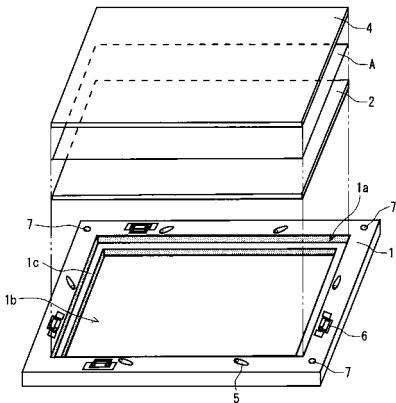
(54) 【考案の名称】 印刷物用額縁

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】簡単な作業で、印刷物をずれることなく収納できる額縁を提供する。

【解決手段】裏側に開口する扁平な直方体状の収納部 1 a 及びこの収納部の前側に縁部を残して開口する開口部 1 b を有する矩形の囲繞枠体 1 と、この収納部の前側に配設される透明な矩形板状の面材 2 と、収納部における面材の裏側に配設される方形の裏板 4 とを備え、この面材及び裏板間に印刷物 A を収納する印刷物用額縁であって、上記収納部の平面形状を規格用紙サイズより若干大きい形状とする。上記裏板には、木製の板本体 4 a と、その板本体の表面に積層されかつ表面に微細な凹凸を有する白紙と、板本体の裏面に積層される織布 4 c とを設置する。上記面材及び裏板の厚さは収納部の深さに合致することが好ましい。

【選択図】 図 1



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

裏側に開口する扁平な直方体状の収納部及びこの収納部の前側に縁部を残して開口する開口部を有する矩形の囲繞枠体と、

この収納部の前側に配設される透明な矩形板状の面材と、

収納部における面材の裏側に配設される方形の裏板とを備え、

この面材及び裏板間に印刷物を収納する印刷物用額縁であって、

上記収納部の平面形状が規格用紙サイズより若干大きい形状であることを特徴とする印刷物用額縁。

【請求項 2】

上記裏板が、

木製の板本体と、

その板本体の表面に積層されかつ表面に微細な凹凸を有する白紙と、

板本体の裏面に積層される織布と

を有している請求項 1 に記載の印刷物用額縁。

【請求項 3】

上記面材及び裏板の厚さが収納部の深さに合致する請求項 1 又は請求項 2 に記載の印刷物用額縁。

【請求項 4】

上記白紙として和紙が用いられている請求項 2 又は請求項 3 に記載の印刷物用額縁。

【請求項 5】

上記白紙のベック平滑度が 0 . 5 秒以上 2 0 秒以下である請求項 2 から請求項 4 のいずれか 1 項に記載の印刷物用額縁。

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本考案は、絵画や書画等を用紙に印刷した物（以下、印刷物）を収納し、壁面などに設置して展示する印刷物用額縁に関するものである。

【背景技術】**【0002】**

額縁についての背景技術を図 3 を用いて説明する。図 3 は、従来技術の額縁を示す斜視図である。額縁は、主に裏側に開口する扁平な直方体状の収納部 1 1 a 及びこの収納部 1 1 a の前側に縁部を残して開口する開口部 1 1 b を有する矩形の囲繞枠体 1 1 と、この収納部 1 1 a に配設される透明な矩形板状の面材 1 2 と、前記開口部 1 1 b よりも小さい開口部が中央に設けられているフレームマット 1 3 と、裏板 1 4 と、回動可能に一方が軸支され、裏板 1 4 を押さえるための小片状のトンボ 1 5 とを備える。面材 1 2、フレームマット 1 3 及び裏板 1 4 の平面サイズは、枠体 1 1 の収納部 1 1 a の平面サイズと等しくなっている。

【0003】

印刷物 A を額縁の収納部 1 1 a に収納して飾る際には、面材 1 2 とフレームマット 1 3 をこの順序で枠体 1 1 の収納部 1 1 a に裏側から収納し、その上に印刷物 A を収納し、さらにその上に裏板 1 4 を収納する。印刷物 A は、枠体 1 1 の裏側に複数取り付けられたトンボ 1 5 を回動させて裏板 1 4 を数箇所押圧し、留めることにより収納部 1 1 a 内に固定される。

【0004】

ここで、枠体 1 1 の収納部 1 1 a の平面サイズより小さいサイズの印刷物を収納する際には多少の作業を要することとなる。具体的には、枠体 1 1 の収納部 1 1 a 内に面材 1 2 とフレームマット 1 3 をこの順序で収納し、フレームマット 1 3 の中央上に印刷物 A を上下左右及び斜めにずれないように丁寧に置く。その上に裏板 1 4 を置いて、トンボ 1 5 で押圧し、留めることによって印刷物 A を固定することとなる。印刷物 A をずれないように

10

20

30

40

50

中央に置くことは慎重な作業であり、また、裏板 1 4 を印刷物 A の上に置く際も慎重に行わなければ印刷物 A のずれが生じる。展示会や販売の準備などで大量に額縁に印刷物を収納する場合、この慎重な作業による時間の損失は大きいものとなる。また、高齢者らがこれらの作業を正確に行うことは容易ではない。

【 0 0 0 5 】

また、今日において、美術作品を多くの客に気軽に購入してもらうために、美術作品をカラープリンター等を用いて大量に印刷し、A 4 版サイズ等規格化された用紙サイズで作品を額縁に入れて提供するビジネスも起こりつつある。また、インターネット上で電子媒体として美術作品を販売し、購入者が各自でプリントアウトして作品を入手、展示するといったビジネスモデルのためには、同様に規格化された用紙サイズで作品を提供することが必要となってくる。このような場合、A 4 版サイズ等規格化された用紙サイズの印刷物 A を容易に収容できる額縁が望まれている。従来技術としてフレームマットのサイズを調整することにより収納する絵画等に合わせることで額縁は存在するが（例えば特開平 8 - 3 2 2 6 9 2 号公報）、この額縁を用いた場合も収容部内で印刷物 A のずれは生じるため、印刷物 A を短時間でずれることなく額縁に収容することは容易ではない。

【特許文献 1】特開平 8 - 3 2 2 6 9 2 号公報

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【 0 0 0 6 】

本考案はこれらの不都合に鑑みてなされたものであり、簡単な作業で、誰でも容易に規格化された用紙サイズの印刷物をずれることなく額縁に収納することができる額縁の提供を目的とするものである。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 0 7 】

上記課題を解決するためになされた考案は、裏側に開口する扁平な直方体状の収納部及びこの収納部の前側に縁部を残して開口する開口部を有する矩形の囲繞枠体と、この収納部の前側に配設される透明な矩形板状の面材と、収納部における面材の裏側に配設される方形の裏板とを備え、この面材及び裏板間に印刷物を収納する印刷物用額縁であって、上記収納部の平面形状が規格用紙サイズより若干大きい形状であることを特徴とする印刷物用額縁である。

【 0 0 0 8 】

規格用紙サイズとは、一般的に規格化されている用紙サイズで、例えば日本工業規格 A 版（A 3（420 mm×297 mm）、A 4（297 mm×210 mm）等）、B 版（B 4（364 mm×257 mm）、B 5（257 mm×182 mm）等）、その他官製はがきサイズ（148 mm×100 mm）などをいう。また、本考案において、収納部の平面形状が規格用紙サイズより「若干」大きいとは、収納部の平面形状が規格用紙サイズに対して 100.3 % 以上 102 % 以下の大きさであることをいう。

【 0 0 0 9 】

当該印刷物用額縁によれば、規格用紙サイズの印刷物を収納部に収納する際、印刷物を収納部に対して、上下左右、または斜めにずれることなく収めることができる。また、フレームマットを用いることなく、裏板で押圧することのみにより容易に印刷物を額縁収納部に収納し、固定することができる。すなわち、当該印刷用額縁によれば、作業者は容易にかつ短時間で、規格用紙サイズの印刷物をずれることなく収納部に収納し、固定することができる。

【 0 0 1 0 】

上記裏板が、木製の板本体と、その板本体の表面に積層されかつ表面に微細な凹凸を有する白紙と、板本体の裏面に積層される織布とを有していることが好ましい。当該手段によれば、裏板の微細な凹凸により裏板と印刷物との摩擦力が高まり、収納部に印刷物を収納する際の、または収納部に印刷物を収納した後の印刷物の額縁開口部に対する微妙なずれを防ぐことができる。また、当該手段によれば、白紙及び板本体の有する吸湿機能によ

10

20

30

40

50

り、収納部内に密閉された印刷物の除湿効果が高まり、印刷物を良好な乾燥状態で長期間展示することができる。さらには、当該手段によれば、印刷物にコピー用紙等厚さの薄い用紙を用いた場合においても、裏板 4 の板本体 4 a の表面に白色の和紙 4 b が積層されているため、板本体 4 a の模様等が表面に透けて見えることなく印刷物を収納することができる。さらには、当該手段によれば、裏板の板本体の裏板に織布が積層されているため、印刷物の厚さに多少の厚薄がある場合にも織布の弾力性により印刷物を収納部内に納め、かつ十分な力で押圧し、ずれることなく留めることができる。

【 0 0 1 1 】

上記面材及び裏板の厚さが、収納部の深さに合致することが好ましい。当該手段によれば、フレームマットや厚み調整材を用いることなく、面材及び裏板のみで印刷物を十分な力で押圧し、ずれることなく留めることができる。

10

【 0 0 1 2 】

上記白紙としては和紙が用いられていることが好ましい。当該手段によれば、和紙の高い吸湿性により印刷物を良好な乾燥状態を保ったまま長時間展示することができ、また、和紙が有する微細な凹凸により印刷物のずれを効果的に防止することができる。

【 0 0 1 3 】

上記白紙は、ベック平滑度が 0 . 5 秒以上 2 0 秒以下であることが好ましい。ここで、「ベック平滑度」とは、J I S P 8 1 1 9 に規定される「紙及び板紙 - ベック平滑度試験機による平滑度試験方法」準じて測定された値である。当該範囲の平滑度である白紙を裏板に備える印刷用額縁によれば、印刷物が収納部内でずれることなく最適に固定することができる。

20

【 考案の効果 】

【 0 0 1 4 】

以上説明したように、本考案の印刷物用額縁によれば、規格用紙サイズの印刷物を容易に収納し、印刷物の収納部内でのずれを防ぐことを可能とする。従って、当該印刷物用額縁によれば、容易にかつ短時間で、規格用紙サイズの印刷物を額縁に収納することが可能となり、印刷物を良好な乾燥状態で長期間展示することができる。

【 考案を実施するための最良の形態 】

【 0 0 1 5 】

以下、適宜図面を参照しつつ本考案を詳述するが、この記載に基づいて本考案が限定的に解釈されるものではない。

30

【 0 0 1 6 】

図 1 は本考案の一実施形態に係る印刷用額縁を示す斜視図であり、図 2 は図 1 の印刷物用額縁の部分的拡大断面図である。

【 0 0 1 7 】

図 1 の印刷用額縁は、囲繞枠体 1 と、面材 2 と、裏板 4 とを備えている。

【 0 0 1 8 】

囲繞枠体 1 は、矩形に形成され、裏側に開口する扁平な直方体状の収納部 1 a と、この収納部 1 a の前側に縁部を残して開口する開口部 1 b と、裏面に回動可能に付設されるトンボ 5 と、吊金具 6 とを主に備えている。囲繞枠体 1 のサイズは、収納する印刷物の用紙サイズやデザイン性により適宜選定される。本実施形態においては、日本工業規格 A 4 (2 1 0 mm × 2 9 7 mm) サイズの用紙の印刷物に対応した印刷物用額縁としており、囲繞枠体 1 のサイズは縦約 3 0 cm、横約 4 0 cm である。また、囲繞枠体 1 は、四辺を構成する木製の板材を成形加工されている。囲繞枠体 1 の表面には、塗料等の塗装や、合成樹脂等などによる装飾加工等を行うこともできる。

40

【 0 0 1 9 】

収納部 1 a は、扁平な直方体状に囲繞枠体 1 の裏面中央に設けられ、この中に面材 2、印刷物 A 及び裏板 4 が収納される。当該収納部 1 a の平面サイズは、収容される印刷物 A のサイズである A 4 (2 1 0 mm × 2 9 7 mm) サイズの 1 0 0 . 3 % 以上 1 0 2 % 以下であることが好ましく、本実施例においては縦横ともに約 2 mm (印刷物に対して約 1 %

50

）の余裕を持たせた平面サイズ（ $212\text{ mm} \times 299\text{ mm}$ ）となっている。また、収納部 1 a の深さは 7 mm である。当該印刷物用額縁によれば、収納部 1 a の平面サイズが約 2 mm の余裕を有する大きさとなっていることにより、印刷物 A を容易に収容部 1 a 内に収容させることができる。また、印刷物 A の用紙サイズに若干の誤差がある場合も十分収容することができ、この程度の余裕であれば印刷物 A の傾きが視認されない。なお、この余裕が大きすぎると印刷物 A の収容部 1 a 内でのずれが大きくなるので好ましくない。

【0020】

開口部 1 b は、直方体状に収納部 1 a の前側に設けられ、縦 196 mm 、横 283 mm の大きさで囲繞枠体 1 の表側中央に開口している。当該開口部 1 b から印刷物 A は鑑賞される。開口部 1 b と収納部 1 a の大きさの差異（縦横ともに 16 mm ）が、幅 8 mm のい

10

【0021】

面材 2 は、長方形状に形成されている。当該面材 2 は、透明な材質のものであり、本実施例においてはアクリル板を採用している。面材 2 のサイズは印刷物 A と同じ大きさとなるため、日本工業規格 A 4（ $210\text{ mm} \times 297\text{ mm}$ ）サイズとしており、厚さは 2 mm である。なお、アクリル板以外にも透明な材質なものとして、他の合成樹脂やガラス板等を用いることも可能である。当該面材 2 は、収納部 1 a 内で表側から印刷物 A を押さえて固定するとともに、印刷物 A を前面から保護している。

【0022】

20

裏板 4 は、扁平な直方体状を有し、木製の板本体 4 a と、白色の和紙 4 b と、織布 4 c とを備えている。裏板 4 のサイズとしては、平面形状が日本工業規格 A 4（ $210\text{ mm} \times 297\text{ mm}$ ）サイズであり、厚さは 5 mm である。当該裏板 4 は、収納部 1 a 内で裏側から印刷物 A を押さえて固定するとともに、印刷物 A を裏側から保護している。

【0023】

板本体 4 a は、平面形状が日本工業規格 A 4（ $210\text{ mm} \times 297\text{ mm}$ ）サイズ、厚さが 4 mm の合板である。印刷物 A を裏面から押圧することにより固定するとともに、印刷物 A を裏面から保護するものである。板本体 4 a の素材としては合板に特に限定されないが、吸湿性の点から単板、その他パーティクルボード等、木材を用いることが好ましく、その他、吸湿性を有する厚手の紙等も用いることができる。吸湿性のある素材を用いることにより、収納部 1 a 内に密閉された印刷物 A の除湿効果が高まり、印刷物 A を良好な乾燥状態で長期間展示することができる。なお、吸湿性を有しない金属板や合成樹脂板等、他の素材を用いることも可能である。

30

【0024】

和紙 4 b は、表面に微細な凹凸を有する白色のもので、板本体 4 a の表面全面に積層され、接着剤等により固定されている。和紙 4 b の材料としては、楮、雁皮、三桠等が適宜用いられるが、繊維が太くて長く丈夫な楮が好適に用いられる。

【0025】

当該和紙 4 b によれば、表面の微細な凹凸の存在により印刷物 A と裏板 4 との摩擦力が高まり、収納部 1 a に印刷物 A を収納する際の、または収納部 1 a に印刷物 A を収納した後の印刷物の額縁開口部 1 b に対する微妙なずれを防ぐことができる。

40

【0026】

和紙 4 b の平滑度としては、ベック平滑度が 0.5 秒以上 20 秒以下のものが好適に用いられる。平滑度が当該範囲を超える（凹凸が小さい）場合は十分な摩擦力が生じず、また平滑度が当該範囲未満（凹凸が大きい）であれば、印刷物 A が押圧される際に、印刷物にまで凹凸が映ってしまうおそれがあるためである。なお、凹凸のある白紙としては、和紙に限定されず、その他の繊維の粗い紙や、紙に他の素材を混合させることにより凹凸を施したものなどを用いることも等も可能である。また、紙は無酸性紙のものがよい。酸性紙であると、作品が酸によって傷んでしまうおそれがあるからである。

【0027】

50

また、当該和紙 4 b によれば、和紙 4 b の有する吸湿機能により、収納部 1 a 内に密閉された印刷物 A の除湿効果が高まり、印刷物 A を良好な乾燥状態で長期間展示することができる。さらには、当該印刷物用額縁によれば、印刷物 A にコピー用紙等厚さの薄い用紙を用いた場合も、裏板 4 の板本体 4 a の表面に白色の和紙 4 b が積層されているため、板本体 4 a の模様等が表面に透けて見えることなく印刷物 A を収納することができる。

【0028】

織布 4 c は、厚さが 1 mm であり、板本体 4 a の裏面全面に積層され、接着剤等で固定されている。織布 4 c の材質としては一定の弾力性を有していれば特に限定されず、ナイロン、アクリル、ポリウレタン、ポリエステル等の合成繊維、綿、麻、絹等の天然繊維等が額縁全体の色調等に合わせて適宜採用される。当該印刷物用額縁によれば、裏板 4 の板本体 4 a の裏面に織布 4 c が積層されているため、印刷物 A の厚さに多少の厚薄がある場合にも織布 4 c の弾力性により印刷物 A を収納部 1 a 内に納め、かつ十分な力で押圧し、ずれることなく留めることができる。

【0029】

トンボ 5 は、金属製で楕円板状に形成されている。当該トンボ 5 は、囲繞枠体 1 の縁部裏面の収納部 1 a の近辺に短片側に各 1 個、長辺側に各 2 個の計 6 個ほどが回動可能に螺設されている。トンボ 5 のサイズとしては、長さ 1 cm 以上 3 cm 以下、幅 3 mm 以上 1 cm 以下であることが好ましい。当該トンボ 5 により、収納部 1 a 内に収納された印刷物 A 等を固定することができる。

【0030】

吊金具 6 は、囲繞枠体 1 の縁部裏面に各辺に 1 力所ずつ計 4 個螺設されている。吊金具 6 は、各辺の中央に位置せず、一方に寄った対辺の同士の吊金具の位置が等しい位置に螺設されている。当該吊金具 6 に吊糸を通すことにより、当該印刷物用額縁を縦横いずれの向きにも壁等に展示することができる。

【0031】

以下、当該印刷物用額縁の使用方法を説明する。囲繞枠体 1 を裏向きに静置し、まず面材 2 を収納部 1 a に収納する。その上に A 4 サイズの印刷物 A を印刷物用額縁の表側に印刷物 A の表面が向くように収納し、さらにその上に裏板 4 を和紙 4 b が印刷物 A と接触する向きに収納する。収納部 1 a の平面形状は、A 4 (210 mm × 297 mm) サイズの大きさに縦横ともに 2 mm 程度の余裕を持たせた大きさ (212 mm × 299 mm) であり、面材 2、印刷物 A 及び裏板 4 は全て A 4 (210 mm × 297 mm) サイズの大きさである。従って、面材 2、印刷物 A 及び裏板 4 は全て収納部 1 a 内中央に、上下左右及び斜めにずれることなく収納される。面材 2、印刷物 A 及び裏板 4 を収納部 1 a 内に収納した後、トンボ 5 で裏板 4 を数力所押圧することにより印刷物 A が収納部 1 a に容易に固定される。

【0032】

図 2 に示すとおり、当該印刷物用額縁によれば、収納部 1 a の深さが 7 mm、面材 2 の厚さ 2 mm、裏板 4 の厚さ 5 mm となっており、収納部 1 a の深さが面材 2 及び裏板 4 の厚さに合致するように設計されている。従って、印刷物 A は面材 2 及び裏板 4 に挟まれた状態で収納部の深さに収まり、トンボ 5 で確実に固定されることができる。さらには、裏板 4 の裏面に織布 4 c が積層されているので、印刷物 A が多少厚い用紙である場合でも、織布 4 c がクッションとなり厚みが調整され、収納部 1 a 内に収まり固定されることができる。裏板 4 の表面には、表面に微細な凹凸を有する白色の和紙 4 b が積層されているので、微細な凹凸により裏板 4 と印刷物 A との摩擦力が高く、収容部 1 a に印刷物 A を収納する際の、または収容部 1 a に印刷物 A を収納した後の印刷物 A の開口部 1 b に対する微妙なずれを防ぐことができる。

【0033】

当該印刷物用額縁は、囲繞枠体 1 の裏面に螺設された吊金具 6 に吊糸を通し、吊糸を壁に付けたフック等に掛けることにより、額縁を壁に掛けることにより展示することができる。また、吊金具 6 を用いて壁に掛け飾る以外にも、囲繞枠体 1 の裏面の 3 角部に穿設さ

れた穴 7 のうち隣接する 2 カ所に所定長さの棒を挿入することで、縦又は横に机上に立たせて飾ることも可能である。

【 0 0 3 4 】

なお、本考案の印刷物用額縁は上記実施形態に限定されるものではない。例えば、サイズを A 4 サイズの印刷物に対応するもの以外に、A 3 版 (4 2 0 m m × 2 9 7 m m)、B 4 版 (3 6 4 m m × 2 5 7 m m)、B 5 版 (2 5 7 m m × 1 8 2 m m) 等)、その他官製はがきサイズ (1 4 8 m m × 1 0 0 m m) 等に対応したサイズとすることも可能である。

【 0 0 3 5 】

また、囲繞枠体 1 の材質としては、加工が容易で、比較的軽量なものであれば、木材以外に、アルミニウム等金属材料や、合成樹脂等も用いることも可能である。

10

【 0 0 3 6 】

さらには、収納部 1 a の深さ、面材 2 の厚さ及び裏板 4 の厚さは、上記のそれぞれ 7 m m、2 m m 及び 5 m m に限定されず、収納部 1 a の深さが、面材 2 及び裏板 4 の厚さの合計と一致するように設計されればよい。

【 産業上の利用可能性 】

【 0 0 3 7 】

以上のように、本考案の印刷物用額縁は、規格化されたサイズの用紙に印刷された絵画等を容易に収納する印刷物用額縁として用いる際に有用であり、特にカラーコピー機などを用いて絵画等を多量に印刷し、額縁に装着し販売する際などに好適に使用される。

20

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 3 8 】

【 図 1 】 本考案の一実施形態に係る印刷物用額縁を示す斜視図

【 図 2 】 図 1 の印刷物用額縁の部分的拡大断面図

【 図 3 】 従来技術の額縁を示す斜視図

【 符号の説明 】

【 0 0 3 9 】

1 囲繞枠体

1 a 収納部

1 b 開口部

1 c カカリ

2 面材

4 裏板

4 a 板本体

4 b 和紙

4 c 織布

5 トンボ

6 吊金具

7 穴

1 1 囲繞枠体

1 1 a 収納部

1 1 b 開口部

1 1 c カカリ

1 2 面材

1 3 フレームマット

1 4 裏板

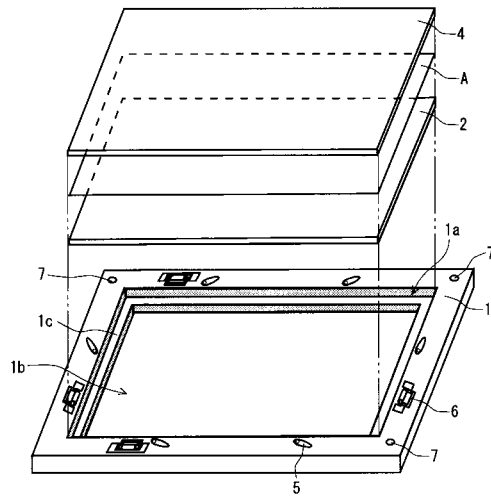
1 5 トンボ

A 印刷物

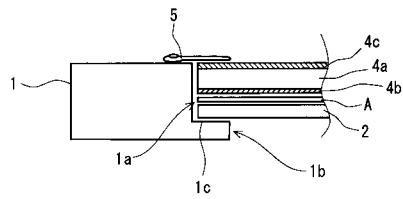
30

40

【 図 1 】



【 図 2 】



【 図 3 】

